編　集　後　記

神奈川県青少年指導者養成協議会では平成 16 年 3 月に「かながわ青少年支援･指導者育成指針」（以下、指針）を策定しました。その指針を絵に描いた餅にしてはならないという考えのもとに、平成 16 年 7 月に専門部会を立ち上げ、多くの人が実際に手に取り、活用していただけるような生きた事例集づくりを目指しました。

事例集のテーマには、指針の中で青少年の育成の視点とした「多様な体験学習の促進」「主体的な参画の促進」「社会的自立の支援」の3本柱のうちの「主体的な参画の促進」を中心に据えました。それは、子ども･若者が主体的に参画する活動を通して、体験学習することが、社会的に自立するきっかけになるという考え方によるものです。このような活動事例を調査･取材により、収集しました。お忙しい中、調査･取材に御協力いただいた関係機関、団体、個人の皆様、本当にありがとうございました。

夏の暑い時期から秋にかけて取材に出かけ、たくさんの方のお話を聞かせていただきました。その中で「子どもの参画」には「大人」が必要であるということを、改めて考えさせられました。しかし、それは従来の青少年活動にありがちな、大人が設定した枠の中で、子ども･若者をともすればお客さんにしてしまうような役割としての「大人」ではありません。子ども･若者が、どんなに小さな（大人が見て、それが稚拙に見えても）ことでも自分で選択し、自分の考えで進めているような活動（遊びでもいい）に対して、暖かいまなざしで見守り、支えていく役割としての「大人」なのです。それが失敗に終わったときにも、マイナス評価をするのではなく次のステップにつながるようにフォローする役割も必要です。このような役割が、指針の中でいう青少年支援･指導者の役割なのです。

したがって今回の事例集では、活動の中で大人が何を引き受け、どう子ども･若者を支援するのかに焦点を当てた子ども･若者との関わり方の事例集になっています。また活動を通して、子ども･若者が自らの成長に気づき、社会的な自立へのきっかけにしている姿も出てきます。

最後に、ぜひこの事例集を活動に役立てていただきたいのですが、「子どもの参画」という形にこだわりすぎないでほしいということも付け加えておきます。すぐに彼らが活動を始めるということはあり得ません。無理やり、子ども･若者が参画しているように見える（見せる）活動を大人が整えてほしくないということです。子ども･若者がやる気を出すような工夫が必要ですが、やはり自発的に動き出すのを待つ姿勢も大切です。また子どもも大人もお互いに遠慮せず意見を出し合える関係づくりも必要です。そういう意味で時間がかかります。大人が自信を持って、前を向いて自分らしく生きている姿を子どもに見せてあげることが、子ども･若者が自分自身が考えるヒントになると思います。そして、子ども･若者･大人が皆愉快になれるような魅力のある活動が、各地域で立ち上がることを期待しています。

平成 17 年 3 月

神奈川県青少年指導者養成協議会　事務局

平成 16 年度神奈川県 青少年指導者養成協議会 専門部会委員

＜委　員＞

相模原市生涯学習部青少年課	主任	高野　靖彦
津久井町生涯学習センター	主任主事	中島　理志
㈶藤沢市市民活動推進連絡会	理事	手塚　明美
㈳横浜ボランティア協会 横浜市青少年交流センター	主事	富岡　克之
㈶横浜中央ＹＭＣＡ　健康教育部	主任	宮﨑　　亮
県立足柄ふれあいの村	副主幹	諸澄　敏之
県立清川青少年の家	主査	平野　幸徳

＜事務局＞

県立青少年センター 青少年支援部長兼指導者育成課長		横田　　直
	副主幹	川手　隆生
	副主幹	日吉　教之

（この冊子は上記委員に検討していただいて作成しました。）

編　集　神奈川県青少年指導者養成協議会
発　行　平成 17 年 3 月
神奈川県立青少年センター
〒 220-0044　横浜市西区紅葉ヶ丘 9-1
電話　045-263-4466
ＦＡＸ　045-242-8190